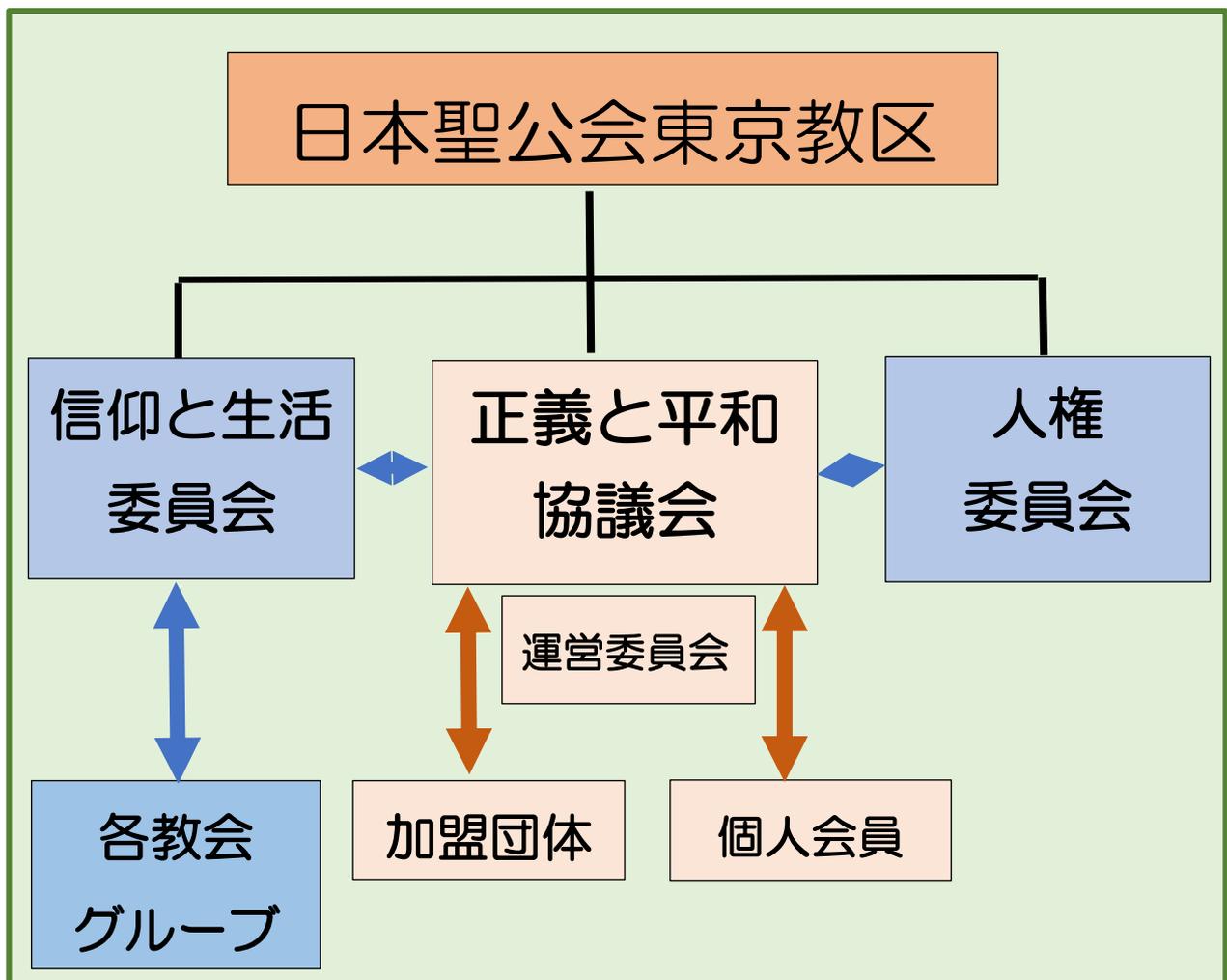


正義と平和協議会の概要

正義と平和協議会は、「この世界において正義と公正を求める教会が、関心を払いまた対応すべき社会的事象に対して、その使命を実行してゆくため情報を交換し、教区内外に伝達するとともに、また具体的な応答をする。

教区及び教会に必要な教育的プログラムを立案し、実施することができる」を職務とし（日本聖公会東京教区施行規則第22条1.2項）、「正義と平和に関する活動・事業または課題に関わっている個人または団体によって構成」されている。

（教区会報告書抜粋）



活動報告(2021年)

① 加盟団体の活動支援及び情報の共有

(公財)東京子ども子育て応援団、ヒューマンシールド神戸、
東京教区障がい者関連活動連絡会、一羊会に対して活動支援を実施

② 講演会 2021年7月31日(土) 14:30~15:30

「子ども食堂からフードパントリーへ

キリスト者だからできること」

講師：(公社)東京子ども子育て応援団の今村代表理事、河野事務局長
(信仰と生活委員会、人権委員会共催:オンライン開催)

参加：約70名

③ 講演会 2022年2月5日(土) 14:00~15:30

「日本の貧困問題の考察と今私たちができること」

講師：稲葉剛氏 (立教大学21世紀社会デザイン研究科客員教授)
(渋谷聖ミカエル教会 ヒルダ・ミッシェル講座)
(信仰と生活委員会、人権委員会共催:オンライン開催)

今後の活動予定

① 講演会 2022年7月 (予定)

東京教区正義と平和協議会 構成団体一覧

名称	代表者・連絡先等	備考
カパティラン	理事長 牧野兼三 kapatiran.tko@nssk.org	リンク先 kapatiran-jp.com
女性が教会を考える会	連絡役 西川華織 kaorinn@ka3.so-net.ne.jp	
東京教区 聖公会生野 センターと共に歩む会	代表 城下 彰 j-a-hiroshi@jcom.home.ne.jp	
サラームパレスチナ	代表 岩浅 明子 副代表 前島 恵 akikoiwaasa2000@yahoo.co.jp	
東京教区「障がい者」 関連活動連絡会	代表 鵜飼 良機 by-ukai@jka.jp	
ヒューマンシールド 神戸	代表 吉村 誠司 hskobe@ybb.ne.jp	リンク先 HumanshieldKOBE (wordpress.com)
五本木九条の会	代表 楡原 民佳 ctamika@boreas.dti.ne.jp	
リグリマ・ジャパン	代表 上澤 伸子 rigrimajapan@yahoo.co.jp	
バンサーイターン 共の会	代表 佐々木 紀久江 k-agnes0827@amail.plala.or.jp	
一羊会	代表 森田 麻里子 agnes.mariko@gmail.com	
聖公会東京311 ボランティアチーム	代表 楡原 民佳 ctamika@boreas.dti.ne.jp	
いこいの場 エヴァの家	代表 平野 淳子	
(公社)東京子ども 子育て応援団	代表理事 今村和彦 事務局長 河野 司 tsukasakono@kodomoshokudo.com	リンク先 Tokyo Children & Family Supporters (cfs.tokyo)

東京教区正義と平和協議会 加盟団体紹介

名称	女性が教会を考える会	連絡役	西川 華織
概要	<p>この会は、1988年8月に発足した。</p> <p>「女性」が教会を考える会が目指してきたものは、「新しいパートナーシップを通して教会に豊かなのちと働きを」ということである。そのヴィジョンは次の三つのことにまとめられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会のすべての働きに、すべての人に等しく神の召命に応じる道が開かれること。 2. 教会形成のなかで、信徒と聖職がそれぞれに、より積極的に創造的に協働できる道が開かれること。 3. 社会・教会の中で、弱い立場に置かれている人々と共におられる神に従い、仕えるために、教会が新しいのちと力を与えられること。 <p>このようなヴィジョンと共に、わたしたちはこのような教会にしていきたい、もっと「女性」の側から具体的に提案していきたい、声に出し、声を出すことで責任を負っていこう、わたしたち自身において始めようと考えてきた。「女性」と名前がついているが、すべてのセクシュアリティの人びとに開かれた会である。</p>		
活動内容 紹介	<p>1 はじめに</p> <p>1988年夏に、数名の「女性」たちが小さな集まりを持って、この会の名称、趣旨、会員について話し合った。そのきっかけとなったことは、沖縄で開かれた正義と平和協議会の席で、上田亜樹子さんが上げられた「日本聖公会が『女性』にも司祭志願の道を開いてほしい」という声だった。その声に耳を傾け、動かされた「女性」たちは、この願いを共有し、また支持するという願いにおいて結び付けられていた。その話し合いの中から、『女性』が教会を考える会」という長くて分かりにくいと思われる名称が生まれてきた。</p> <p>この会の働きの一つの目標には、「女性」の司祭按手実現ということがあったが、それだけではなく、教会の中の「女性」と「男性」のパートナーシップが本当に幅広く豊かなものになるように、信徒も聖職も、「障がい」を持つ人々も「健常者」と言われる人々も、互いに生き生きと奉仕できる教会を目指したいという大きな目標を共有していた。そして、そのような意見が、教会への不満や批判のための批判に終わるのではなく、自分たち自身の変革を含めて、教会の変革に向けて具体的・建設的に力を合わせようという方向が明確にされていたように思う。</p>		

活動内容
紹介

1 はじめに

1988年夏に、数名の「女性」たちが小さな集まりを持って、この会の名称、趣旨、会員について話し合った。そのきっかけとなったことは、沖縄で開かれた正義と平和協議会の席で、上田亜樹子さんが上げられた「日本聖公会が『女性』にも司祭志願の道を開いてほしい」という声だった。その声に耳を傾け、動かされた「女性」たちは、この願いを共有し、また支持するという願いにおいて結び付けられていた。その話し合いの中から、「『女性』が教会を考える会」という長くて分かりにくいと思われる名称が生まれてきた。

この会の働きの一つの目標には、「女性」の司祭按手実現ということがあったが、それだけではなく、教会の中の「女性」と「男性」のパートナーシップが本当に幅広く豊かなものになるように、信徒も聖職も、「障がい」を持つ人々も「健常者」と言われる人々も、互いに生き生きと奉仕できる教会を目指したいという大きな目標を共有していた。そして、そのような意見が、教会への不満や批判のための批判に終わるのではなく、自分たち自身の変革を含めて、教会の変革に向けて具体的・建設的に力を合わせようという方向が明確にされていたように思う。

1989年末にはより広く呼び掛けて、目標を明確にするための会合が開かれた。それは、1990年5月に開かれる日本聖公会総会に向けて、どのように運動を広げていくかということを議論した最初の協議する場だった。

このように1988年、89年の活動をいわば準備期間と考えると、1990年から2015年の期間は25年間、四半世紀に当たっている。その後の7年を含めこれまでの道のりを振り返り、その意味を確認・共有しつつ、これからの課題に思いを向けていくことが大切だろうと考える。それはこの会に関わった個人としてのそれぞれの思いを含めながらも、この期間に日本聖公会が刻んできた歴史全体の中にも位置づけられるような視点をもって残される必要があるだろう。

2 これまでの活動を振り返って

・「聖公会『女性』フォーラム」が始まったのは1992年だった。以後、原則として毎年、各地で継続され、参加する個人が互いに親しく交わり、活動を報告し合い、「女性」の視点からの聖書の学びの時間を重ね、目標を共有して励まし合い、礼拝を共にして派遣し合うというフォーラムの形が定着してきた。これは、組織的な形というよりも各自の自主性を大切にしながら、各地の「女性」の会（東京、京都、関西、九州へと広がりをもって成長してきたネットワーク）の自主的な活動に基礎を置き、それらの交わりを形に表す大切な機会となってきた。

・隔年（偶数年）の5月に開催される日本聖公会総会の前夜には「総会前夜の祈りの会」を開き、総会代議員に案内を発送して参加を呼び掛けた。議案提出に向けて、内容を絞り込み、議案提案者、議案説明者などを確定していく作業が進められた。そのような活動が1992年、94年、96年、98年と続き、ついに98年総会で日本聖公会法

活動内容 紹介

規における司祭志願の要件から「男性」という文字が削除されるに至った。その後も現在まで、その時に応じた課題を選び、総会前夜の祈りの会は継続されている。

・毎年、「アドベントの祈りの集い」（後に「顕現日の祈りの集い」）を主催し、教会や信徒の方々に呼びかけて、教会として関心を共有し、発言をしていく場として時代や人々の課題についての祈りの時を持ってきた。

・「わたしたちの祈り集 ころを神に」を重ねて発行し、さまざまな機会に用いて、祈り書の祈りだけではない祈りの在り方を共に模索し経験することを大切にしてきた。

3 「女性」が教会を考える会の果たしてきた役割と課題

このように多様な活動形態を取り、組織としては個人の自主性に根差した団体は、一見したところ理解されにくいかもしれない。参加者は、それぞれの人生の折々にできることを、できる時に可能な範囲で力を合わせることによって、いわば「自然に形作られてきた」団体である。誰がどれだけ主体的な意識をもって活動に参加できるか、それを外的に規定してきた規則はない。

それでも内容的に一貫した目標を掲げて活動してこることができた結果として、日本聖公会の中での「女性・ジェンダー」に関わる宣教課題に深く関与することができた。2004年から始まった正義と平和委員会のジェンダープロジェクト、2006年に発足した女性デスクの働きには、それぞれのメンバーが大きくかかわってきたし、その内容は「女性」フォーラムの場でさらに広く共有されてきた。そのような意味で、「女性」が教会を考える会は、まったく小さな任意団体であるにもかかわらず大きな流れに寄与し、共に宣教の課題を担い、進むべき方向を切り開く役割を果たしてこることができたと言えるのではないだろうか。

（「女性」が教会を考える会 25周年に当たって 山野繁子）より抜粋、加筆。

追記

1998年の日本聖公会総会で法規改正が行われ、同年12月、初めての「女性」の司祭が誕生した。大きな喜びがあった。

一方で、すべての教区において、「女性」の司祭としての聖職位が、十分尊重されているとは言えない状況もあった。

2018年、日本聖公会総会で「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」とそれに伴う「相談窓口」の設置が決議され、新しい歩みが始まった。

2022年4月、北海道教区の主教被選者である笹森田鶴司祭は、日本聖公会及び東アジアで「女性」として初めて主教に按手される。この会が発足してから34年目の春である。

東京教区正義と平和協議会 加盟団体紹介

<p>名称</p>	<p>東京教区 聖公会生野センターと共に歩む会</p>	<p>代表者</p>	<p>城下 彰</p>
<p>概要</p>	<p>1980年代の中頃に大阪教区聖ガブリエル教会の礼拝堂の再建と地域活動センターの開設に向けて日本聖公会全体で取り組むことになった。東京教区では「社会委員会」「生野キャンペーン委員会」「日韓在日プロジェクト」「聖公会生野センター10周年記念事業支援プロジェクト」が教区の公式の生野の窓口を担ってきた。しかし教区の機構改革で公式な生野の窓口はなくなった。現在は宣教主事が東京教区の窓口とされています。それがきっかけとなりそれまで活動を行っていたメンバーが活動を継続するため任意団体を結成し「正義と平和協議会」に参加した。</p> <p>聖ガブリエル教会の建物が再建された現在は生野センター支援が中心である。</p> <p>詳細は「東京教区正義と平和協議会便り」 N014(2009. 11. 23)別紙参照</p>		
<p>活動内容 紹介</p>	<p>生野センターの活動の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後援会員の募集の協力 ○関東3教区(東京・横浜・北関東)生野委員会への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の開催 (日韓の歴史を学ぶ会) ・研修旅行 (フィールドトリップ) ・ブックレットの発行 <p style="text-align: right;">等</p> <p>聖公会生野センターの現在の活動内容は生野センター発信の会報等をご覧ください。</p> <p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハルモニ(高齢ご婦人)デイサービス「のりばん」 ・絵画教室、韓国語教室 ・地域寄席 (こみち寄席) ・各種研修の受け入れ ・済州島 4.3 事件の慰霊と継承 ・ヘイトスピーチ反対活動 ・機関誌ウルリム (響) の発行 <p>聖公会生野センターは 2022 年に設立 30 周年を迎えます。 生野は歴史的に在日韓国人・朝鮮人の人達が多く生活する地域です。</p>		

「聖公会生野センターと共に歩む」こととは

「東京教区聖公会生野センターと共に歩む会」代表 城下 彰

今回は私達及びセンターの活動ではなく、聖公会生野センターの開設経緯をお知らせします。今まで何度かお伝えしてきた事です。でも、これは常に語り継がれて行かなくてはならない事だからです。

聖公会生野センターの事を語る時、聖ガブリエル教会の事を外して語る事はできません。聖ガブリエル教会の礼拝堂の再建と聖公会生野センターの開設は日本聖公会が歴史への認識とそれまでの姿勢を反省し、日韓の和解を約束し、新しく生野の地で地域に奉仕し宣教に生きる事を決意した象徴であるからです。

戦前に在日朝鮮人への宣教を使命として大阪、生野の地に設立された聖ガブリエル教会は戦中、創設者の張本栄牧師の逮捕、教会の建物の喪失などの多くの苦難を受けます。そして戦後も支援の不十分な中で、定まった礼拝の場所も持たず、細々と礼拝を守り続けてきました。しかし、同じ日本聖公会の一員であるその存在を日本聖公会は、ほとんど、知らずにきました。1984年、「日韓セミナー」の準備の参加者した者がその存在を初めて知る事になります。日本聖公会は、その反省を踏まえ、前述のような決意に全聖公会で取り組む事を1986年の総会で決議します。それを受けて管区の「日韓協働委員会」や「大阪教区」が中心になって、募金活動が行われました。そして、聖ガブリエル教会の信徒の皆さんが、全国を回り、今までの個人史を語り(韓国語では身世打鈴といひます)礼拝堂の再

建を訴えました。キャンペーンのビデオも作成されました。そして、なによりも、大韓聖公会がこの活動を覚え、祈り、積極的に「募金活動」を通じて支えてくれた事も忘れてはなりません。今でも聖公会生野センターは、大韓聖公会の「分かち合いの家」等との交流を続けています。多くの者が「この活動は単なる一教会の礼拝堂の建築の為の募金に終わらせては、ならない」と、各教区での学びの機会が持たれました。また、大阪教区宣教部の主催した「出会い IN 生野」を始め、多く団体が学びの為に生野を訪れました。北関東教区ガブリエル委員会、東京一ソウル青年交流協議会等です。そして、東京・横浜・北関東の関東3教区は協働して日韓の歴史を学ぶ会を始めました。それは今春で39回を数えました。また当時の木川田大阪教区主教は「この働きは地域に開かれたもので、なくてはならない。保育園のような事業を一緒にできないだろうか」と、考えていました。当時、この地域に「保育園」は、ありましたが「乳児保育園」は、ありませんでした。幸い大阪教区には「博愛社」があり、そのノウハウを持っていた事、行政の協力もありこひつじ乳児保育園も一緒に開設する事が、できました。そして1992年に礼拝堂が再建され、三者の協働の働きが始まりました。

私達は、現在の存在だけではなく、そうした歴史も覚えて「聖公会生野センターと共に歩む事」が求められています。

東京教区正義と平和協議会 加盟団体紹介

名称	リグリマ・ジャパン	代表者	上澤 伸子
概要	<p>わたしたちは、2004 年からバングラデシュの少数民族ガロの女性たちと「リグリマ」(ガロ語で団結、共働の意味)という相互扶助グループを共同運営しています。日本とバングラデシュのリグリマは、対等な関係で結ばれたジョイント・グループです。</p> <p>クリスチャンであるガロの人たちは、バングラデシュにおいて民族的にも宗教的にも少数派であるがゆえに、さまざまな生きにくさを抱え、貧困から抜け出ることができません。そのような状況を打開するために、現地のリグリマは 10 グループ約 100 名のガロ女性を組織し、貯蓄と互助を通じて、生活を向上させるための相互扶助活動を行っています。日本のリグリマは、手工芸品販売などの収益や寄付などによって、ガロの女性たちによる生活向上の活動を支援しています。</p>		
活動内容 紹介			

東京教区正義と平和協議会 加盟団体紹介

名称	バンサーイターン 共の会	代表者	佐々木 紀久江
概 要	<p>「バンサーイターン」は、タイの小都市チェンマイで、HIV/AIDSの方々や少数民族の難民・移民など社会的に見逃されている人々に対して、生活の基盤を築くための“職業訓練”という小さなチャンスを提供し、このチャンスが彼らの大きな希望へと変わるようサポートを続けている団体です。</p> <p>「バン」は「家」、「サーイターン」は「小川」で、「小川の家」という意味です。</p> <p>代表の早川文野さんは、日本で「女性の家HELP」で活動されていた方です。</p>		
活動内容 紹介	<p>バンサーイターンには、学校に行けない人、結婚しても夫の暴力等で家を出た女性、隣国からの避難民・少数民族、路上生活の人たちがやってきます。生活が苦しい人々に、裁縫などの技術を身につけてもらい、自分の力で、自立で来るようサポートしています。</p> <p>社会的弱者の人々は、長引くコロナ感染の拡大や政情不安で、より生活が厳しくなり、精神的にも不安定になっています。医療費、食費、その他交通費等々、必要経費が多くなり、バンサーイターン活動もより厳しくなっています。</p> <p>「バンサーイターン共の会」では、現地で調達した用紙やカード材料を使いクリスマスカード等を作成販売したり、現地の市場で購入した手芸品などを取り寄せ販売したり、会報を発行（しばらく発行できずにいます）しバンサーイターンの活動を共に支えていきたいと思っています。教区の信施奉獻先団体に指定していただいたり、諸教会から献金をいただきこの場をお借りして感謝申し上げます。</p> <p>「小さなチャンスを大きな希望へ」というバンサーイターンの目標を共に支えていきたいと願っています。</p>		

東京教区正義と平和協議会 加盟団体紹介

名称	一羊会	代表者	森田 麻里子
概要			
活動内容 紹介	<p>仙台・北陵クリニック事件とは</p> <p>仙台北陵クリニック事件」は医療従事者が担当の患者を殺害した事件として世間的注目を集めました。2000年10月31日小児科を受診した小学校6年生の女兒が、点滴の処置を受けて約5分後から容体が急変して一時心肺停止に陥り、直ちに仙台市立病院に転送され、数日後に遷延性意識障害と診断されました。</p> <p>2001年1月6日クリニック准看護師の守大助さん(当時29歳)は小6女兒の点滴に筋弛緩剤を混入し殺害を図ったことを自認したとして逮捕されました。89歳女性の殺人、1歳女兒、45歳男性、4歳男児に対する殺人未遂の罪で逮捕と起訴が繰り返されました。逮捕後長時間の取り調べにより自白を強要されましたが、逮捕3日目の弁護士との接見後一貫して犯行を否認しています。守大助さんは筋弛緩剤を投与していず、患者の急変は他の原因であるという弁護団の主張は認められず、2008年2月無期懲役が確定し、7月に千葉刑務所に移送されました。</p>  <p>「一羊会」の働き</p> <p>2008年「仙台・北陵クリニック事件」で無実を訴える守大助さんから「聖公会に助けて欲しい」という手紙を頂き、「一羊会」を立ち上げました。毎年千葉刑務所に面会に行き、日々の様子や再審請求準備の進捗状況をお</p>		

聞きしています。守大助さんは受刑者約 1000 人の食材の下処理班の班長をしています。収入は毎月 1 万円位とのこと。毎月励ましの手紙をお出ししており、一緒に本を送っています。守大助さんは韓国ドラマが好きなので、韓国ドラマの保存型雑誌「ムック」等気分転換になれるような本を送っています。

コロナ禍前まで正義と平和協議会から活動支援金を頂き、木谷明弁護士講演会等講演会を開催してきました。また守大助さんは詩文を書かれていますので、人権委員会との共同発行で詩文集「僕は無実です」を 2 冊発行しています。2021 年春守大助さんは 50 歳になられました。50 歳のお誕生日お祝いとして正義と平和協議会・人権委員会双方からご協力を頂き、冊子「守大助さんの詩文集&裁判資料」1000 部発行しました。1 部 50 円で販売し、約 600 部販売。守大助さんに著作権料をお支払い致しました。

東京教区はキリスト者平和ネットに加盟しています。キリスト者平和ネットは宗教者平和ネットと一緒に毎月内閣要請をしています。仏教、キリスト教各教派の方々が辺野古新基地問題、入管法問題等の社会問題の要請書を提出されています。「一羊会」も年に 2 回程内閣府要請に参加し、首相あてに「再審法改正」の要請書を提出しています。

☆無実の守大助さんに励ましのお手紙をお願いします。

全国各地の冤罪支援に多くのクリスチャンが関わっています。守大助さんから「聖公会に助けて欲しい」というお手紙を頂いたことは、聖公会にとって大きな責務です。現在守大助さんは第二次再審請求準備中です。ぜひ励ましのお手紙をお願いします。

宛先) 〒264—8585 千葉市若葉区貝塚町 192 守大助さま